

911.3

才

ゆひえふみのイキニ
まひも二白まき
生元令
二白まきいろくまをぬる
いりりよ

うまうイッ
二白まき
稲妻
一秋の夜を越枝和妻の面端の仕度生をぬる二白ま
こまのうらねとぬるのまき今も三級のみま

ハ非最分昭
稲妻三秋
いあびう
難と地衣を雷の面まへの字同
いあびりあて雷えりうかす
衣裳

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

水邊の火は七白まきいろをぬる
火五のうらねとぬるのまき
いぬ多秋いぬ多あす死
いりり
一漁火

付て云花のつくりはみお世とあたらうは付てくる一わくすううふも
うふ二つあるふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ
六尺 人便之をわ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花れゆふ

花田

だ
ふく之難之

我の字
あやと

不
正之理
人之理

冬之北正

花史

新之極也
二百四

五
五
五

あうとあう

古也
西苑子

卷之七

二乃みち下はくは二も高むと

隔てる一石の如きは、此の

玄れ紫門紫

此落葉

初

山を越えしにのち、
くろくは、

秋
紅
花

1999

七
七

胆病所接

二
之
と云ふ

ちるり三
かきん

三石之石

七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

林
二
後

二

枕

もろくわん

變男
柱
柱談合

桂ノ ハナカ **とん** 一とん二視七の帝 **初路** そのつ **棒** 一りん

三 のそと刀は肌とる **春雨** あつ **女** 二女 **原** はら **汁** じり

人 ふまより **松枝** のこ **釜** かま **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

三 ふみ **守** し **乃** の **神** カミ **拂** はら **乃** の **字** 四ハナ **離** はな **乃** の **字** ハナ **羽** は **の** の **字**

よきありは きふくともあり ありは うまひ合の

新枕 ニイラ 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

く く 西 ニイラ 白 ニイラ 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

人 人 間 人 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

入 入 道 入 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

煮 煮 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

新 新 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

牡丹 牡丹 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

郭 郭 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

星 星 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

星 星 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

星 星 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

星 星 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

星 星 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九 十 十

有り シタ甲乃見り今 柳 一柳友入柳あり

眼 尺余 論 味骨 井 一井り

煨 一煨 子 一子 子 一子

帽 一帽 子 一子 子 一子

禮 一禮 乃 一乃 字 一子 候 一候 競 一競 本 一本

子 一子 拂 一拂 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

骨 一骨 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子 子 一子

ねのきとて終や トヤカ 多屋 なごや 豊明乃節云 トヤカ

ねのき ねのきの字は三つをき 所持 所持をいふ 所持 所持をいふ 所持 所持をいふ 所持 所持をいふ

字 三つをき 年 年 年暮 年暮 年暮 年暮

こせ五 こせ五 字 字 字 字 字 字 字 字

油 油 油 油 油 油 油 油 油 油

乃字 乃字 乃字 乃字 乃字 乃字 乃字 乃字 乃字 乃字

同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字 同れ字

徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳

石 石 石 石 石 石 石 石 石 石

純 純 純 純 純 純 純 純 純 純

利 利 利 利 利 利 利 利 利 利

根 根 根 根 根 根 根 根 根 根

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

二百^ト同志^ト 人傳^トありて

ものなりけり

此はたより所ナ

宿直^{トノ井} 一夜^トなり

外^{トノハ} 一^トなり

殿^ト 一人^トなり

焼^ト 二^トなり

火^ト 二^トなり

と^ト 龍^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

と^ト 花^ト 一^トなり

と^ト 二^トなり

と^ト 三^トなり

と^ト 四^トなり

と^ト 五^トなり

れ字

四利堂八秋之

契又折る

白作たりて同と

兄

見え珠を

新音

一ある二あると云ふ付留

茶

肉

あつたり

沙

長者

地蔵

ちざり

血

ちひ

ちざり

畜生

草

賃

千

千話

畜生

草

地獄

地獄

丁

亭

越

越

ちひ

地震

子

三

中

長

倫

倫

利

律

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

愚^{ヲカ} ニ多ク一人に 小野 三四はみ なら なをらと心なをら
あ字も二内 あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

なら なをらと心なをら あろへ くも然内あり

雨 付て 備 三喜くといひて 卯 一喜乃

乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

三 三喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

也 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

字 二喜くといひて 乃 松より 髪 眉の雷 風 二切凡

飛石トビイシ
 二百五
 休養後
 甲カウ
 一用貝造の甲も二内ナニ
 あり二枚あり
 藻言モコト

壹約米二壹之
力之
壹二名而不同於一
力
名

五言古詩中八首有氣味如之者一尺其字最難

之冠本以名別
火山人像乃其
五名人像之

ありてふくもを 栗に きてふく人佛之 訓
 金馬の

月此報云云是

但好更令人喜
力如也
若強盜賊

[illegible]

益神和氣人便也

三カサ
サハ名

前下紐前下紐 覓見子竹子竹 加加之之著著てて以以 鼻鼻

カケル

步
判刀又
香
盤
勝
銘

齊人作之

皆從司七

[illegible]

秋入
木下
ハナ
イロ

也
楚
墓
一

新之妻より去
一人傍に
一ひき

あふふふふ

[illegible]

卷之五
聖山抄
如人傳
甲子

人カ
力コ
ユ一
反ハ
中ツ
カ
品
受
破

子
一
元
か
め
一
年
半
の

三三三

力
三
二
也
之
紙
一
之
之

力

乃水子
 肩子
 看注
 乃水子
 乃水子

七集元系又於此之

今より玉乃あるは去てハ
殊玉は二るまで玉とりの人使

男

居而止之也
二為田六為門

四ノ五

徳子ひとめしそら
摩訶とれつ六秋之樹

延

又庶人進之
於北極殿

四

くちあぜ萬代そと

田子平家物

不_レ死_二四_一日_一 四_二日_一

此意不

報
回
取

夜之田更甚
田又

龍田

子集

將

志遠之

土をたきあかすを
まきあかすに陸竹の

子之吾也
 子之吾也

竹乃

非我之為不也

竹乃林

所之七賢之臣

一作林也竹又竹垣又竹田

竹川等竹ス養

竹うゑと戸まねうた

竹山

森ハ香
成ハ香
をうん

又字魯字少戎

西
二
九

あま
非
う
又

松田 三郎

たをうきくたをうき

るもわが義なりともつねづねつたふをすまふを

[illegible][illegible]

芦花之白

也曰

秋之北林

抵當 冬之將付之方

長分又ありて

龍田

久石之町

鷹
一之八但字

わら **き理乃中** 一人一人 **領家** 元元 **買** 二

と只 **き肉** 衆之 **きりきり** 二

之 市之七白之久客客料天れ字二白之字

外面 二飛所之印ハ三白之 **葉** 三

袖被衣 衣 **袖** 衣

雨 二 **袖乃** 衣 **袖乃** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

袖 衣 **袖** 衣 **袖** 衣

そふ一息 さんどく 一まん 祖はひ 捕

素綯 一衣 藤相 一 宗通 一人 卒 亦 一

息 一息 初 二音 惣領 一人 一 一

松 二 人 傷 立 油 一 也 癡者 一 俗 一 新 一

一 人 担 此 双 林 一 爲 二 林 一 字 一 也 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

月 一 月 一 月 一 月 一 月 一 月 一

きりく
なまきり
月れで
心乃

月
月草
月草
月草

や
月乃
月乃
月乃

子
凡本
凡本
凡本

葛
霜
霜
霜

雨
雨
雨
雨

八月
常れ字
常れ字
常れ字

留
留
留
留

桂
桂
桂
桂

尾
尾
尾
尾

尾
尾
尾
尾

尾
尾
尾
尾

尾
尾
尾
尾

尾
尾
尾
尾

一傳之無在を以て
 死多と伝へ人傳の如し
 事
 妹
 名其の事新けつるに

煉付く
ゆきさ
三つうきふも
にて
三つうきふも
三つうきふも

月國之
内入るも秋之月
祭月貝秋又記す可
儼名
之英之

此字也

臺一、あて 杖二、あて 付乃字三、あて 蒼二、あて 柁二、あて

九折道言 變坪二疊 朔日八朔 ぬきやう二

晦日こもり
司一人侍は也
必司と一
掘一名の
つんきり
中

少人云刻碑一作是突此字少文

鉤發
 所之
 流方
 一以
 實
 積此字
 又
 爲
 爲

字 二つと三つ子
少数は二つと三つ
 凡 二つと三つ子
二つと三つ子
 凡 二つと三つ子
二つと三つ子
 凡 二つと三つ子
二つと三つ子

穀ツミ
 一名齊シ
 包ツミ
 四内シ
 沢ツミ
 露ツミ
 秋ツミ

秋九月内々
罪 罪科 天受
内々上戸を
罪 為其罪人
刑 刑力
兵 兵
追 追

[illegible]

人傳之世積水

人備非強之
狹る所と爲て
狢
等々の但隘なり
荒

乃子
の目
孫
二
念
四念者人倫
之要
戸
居所
は

孫子

念四念者人倫
之要あり

嵐

居所
二百

年五キ 嵐火花火 孫おん

嵐火
苑火
苑火

孫子

ねんごう
ねんごう

あつてゐる
同書もふた
音
三つをいへば
ぬと
おのれ馬と汗服
おのれわしと

音 三内吉之越人

聖

我之馬と我職

[illegible][illegible]

煉乃字

孫少
二睡
一眠
孫之孔繁
孫兆清
孫

孫少石鑒

孫北塘先生

此本
 睡又
 面煖
 ねが
 一板のまゝ
 五箇をり
 ねん
 一板
 三乃
 乃

睡又
面端
ねぶと
一柄のちり
五るちり

妙人病
三有比乃

ねんぢふ

ねふろ
あふくちまゐりて

ねどあへ

卷之五

卷之四

...

唱子一缺之字 唱乃字三 人一

子一缺之うは二を
四のうはあて別は

鳴乃字

人代々々々々々々々

國氏
抄子
按庸不可衣袴
多子に毛と平付
あふめ
ひ二五一
亮

三我麻不可不付

子

三
二
一

あつひふふ
形見同
あつめ
形見同
あつめ
神の意三百五
十二

あつめい

十二文

代
 莫字おぼえ之子孫の苗衣園公右造 源氏
 其れも五右衛門
 中
 其の房はむろろむろろ
 其れも五右衛門

苗姓字子孫の苗衣園公石菴

源氏
其れも五宮
子

[illegible]

あまのうみきりうり

五方同文

子くあさるわと 山ノ方 秋 山ノ方 山ノ方

少者

卷之五

黃局秋內所入神采雙波枕每枕一

[illegible]

馬 龍 門 子 日 馬 龍 門 子 日 馬 龍 門 子 日 馬 龍 門 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日 室 子 日

きみ

二つを

村子里

不下付松の一村あり

夢

想

武藏

一むらうをいけて

麦

一畝の麦はえま

ひと

あ

一むら

掠乃木

新

び

ふ

五

う

驚

一世とうひをまな二まに

う

み

三連招

あ

浦

と

海

埋

石

二内

う

ね

生

生

生

う

煙

屋

な

う

乃

字

あ

あ

あ

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

夫はる新よ

うそよ

言はるを

歌ふふたをきき詩月か

ふんりく

皇

用金をきき

乃字五うをゆれ

二後所律儀一

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

うそいみ

うそいみ

二口を之歌

うそ

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

桂乃字

二口を之歌

二口を之歌

二口を之歌

男山

非猿はあつた山あり

恐天

一たうのわらとね



熊

熊の皮をうすててその一匹を熊皮改め

車

一は車水車 天車

香車小車 煎車 油車

車

花の葉は花葉の葉は

四月の傍うま二席のきりり 要量

雲

字をうんどうとて

お八付てもふ若量 後身

雲

大肉の事とて

雲井

後身 雲

雲井

天の四さあり

雲井

雲井

人

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

雲井

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

草

卷之三

三白蓮
乃知乃

山鳥 始我より
三白玄あり

山陰野史

之相也

山ノ下
山ノ下
山ノ下

乃端又岑嶽

尾符ても接合の
折鐵より

山陰

家より
より加へ

錦
思

山科
於照
山

柴うの押おしみみをを花はなと

乙丑子

為付令
寸同之
子

秋の地を
 今二後江家

八歌ふより

八幡ひな をらん 海城れ あり ハ 重

三つにわけてゐる

張生又

交りし三月秋あり所を
是よりとほり多事と少く同を

如字

いけやうにさうぞうをくひ
やうそへとあつた

也步野

安くおさへく
秋のやけ草皆去り

流竊馬

面廻りよく矢張り折を廻り

やもや

人傳ふ事は、
やうくも又、

やぐて

やまゐり、山住二方丈

屋形 二病不
屋の字

之類、其の類、

一、
二、
三、

俳句一

やふて二

癰
止

ちり

久て一

走
山伏

西定之是
八半之人

松若^{マツノ} 志^シ 藤^{フジ} 眉^{メイ}

霜^{シロ} 眉^{メイ} 眉^{メイ} 眉^{メイ}

尾^ビ 尾^ビ 尾^ビ 尾^ビ

一^{イチ} 一^{イチ} 一^{イチ} 一^{イチ}

四^シ 四^シ 四^シ 四^シ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

い^イ と^ト 人^ニ 人^ニ

百二子孫

ハグロ

三ツ一蹴蹴

松風

ハ里

冬

四ノ冬も四ノ冬に

冬

冬

冬

冬

豆

豆

豆

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

改字

西經之方

乃

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

每子 佛五

と結てハ秋

吃

更乃字

名
白
一
ふ
あ
え

鹿

好

猥狽

一之所

上

補陀集

卷之五

三

一

今

夢

三

雨

乃

雪

寶

冬

〇七句

金

く

氷乃とく
細も共道

糸

糸は秋より地二白をまじり
秋はより糸は秋なり

あ

コ

細云霞より糸の白くまじり
糸は秋より糸は秋なり

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

コ

糸は秋より糸は秋なり

糸

糸

カモ 水邊に
鴨 多く居る
燕 ぬいこ
人 倭と云ふに
二句を
琴

一とあうと
きんと今
琴江瑤瑤
面

琴瑟琵琶

恒
父母一編
人所共知人之為永恆者也
元化

无母

一編一喜之書なりぬ編乃余三編を
品所れ編人の為永編て外は余

元金

人傷ええうねと姫東夷の御事、靈二西戎此四乃内今、方いも七月
 又名の夷則ハ三乃志一為蜜ハ
 非人傷ええう人傷なり
 えひろめ
 おどうれ者く
 うろなる

えび

多のふなり

七の五をきこふに三のちのさ付てちーのすえとかなあるを三万と
そとくハ

えび
一、うのや失主と姓号ニ書
夫を折ふて二宮
元初ぬ江不校得乃字金より元城

一、今矢立と号二、今矢立

えの娘に云松得の字今よりえの娘

寺
尺蓋之品所又ゆす
子乃点
三路不二二句玄

寺
三内為西寺等二寺
尺蓋之居所也

子乃克

此尺五寸三分
二寸二分五分

[illegible]

も此所、あれ打歌と強か

手洗水

とふれ沖は流れて
てど海り下乃白
ふにふれあとし

てと降り下乃白
又只一

五
以
我
と
七

五下は付そく一物守兼て吸屋の作りても五下内
し下は以て押せるものなりとも往々之を袖からけり

五斗の下は付てくろしや守藝は吸屋の入りても五斗内
へ下は以て押せるをありてくろしや守藝は吸屋の入りても五斗内

朝アサ氣キ 我知胡辨ワカハナ 以就ヨシ 又マタ 付ツキ 女メ 也ヤ 何ナニ 以ヨリ 知チ 寸スナハチ 人ヒト 之ノ 以ヨリ 云イハレ 云イハレ 而シテ 發ハツ 大オホ 内ウチ 大オホ 又マタ 以ヨリ 知チ 面オモテ 之ノ 經ス 商シヤウ

我朝朝鮮は既にあさむしかりしなり
てうめり云々而後大内大外親政を經

商賈

一人佛ひとにんぶつ て
 天狗てんぐ て
 魔折まをり て
 天井てんじやう て
 天てん て
 天てん て

司一此生於非祇上

天井

天

御手狎ニシテ
 亭主テイシュ
 帝王テイオウ
 典業テンギョク

亭主

人帝王

天子テン人ヤ傳リ又ニ典テン某ヤ

正月十一日也
秋乃振
きんぎょのめを振
其のなまきと振る有
庭意
三星おひは
以外なり

殊の原一

秋の果同面より一ツの
わが内務ありとてきき定秋より

秋の西

わが内務ありとてきき定秋より

とく

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

会

正月 秋の五
七のありて海士人傳人

又

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

何

あつて海士人傳人
七のありて海士人傳人

言 振乃爲肉極乃爲食之
久所不難之極乃爲食之
極 乃爲食之極
極 乃爲食之極
極 乃爲食之極

言 振乃爲肉極乃爲食之
久所不難之極乃爲食之
極 乃爲食之極
極 乃爲食之極
極 乃爲食之極

[illegible]

形勢の成り立ち、
水と三つ葉

上
 中
 下
 左
 右
 前
 後
 内
 外
 上
 中
 下
 左
 右
 前
 後
 内
 外

條乃庵 水掛 三句所

[illegible]

あまのつゆもきくをわづらひて
さよふ

包強 作國子名^ル草本^{ハクモ} 墨神子^{サキヒメ}

字に三百ありあり
人備ふ所寸位任然乃

相名所より
三木寺
つち字六井
八人の村
又成

五臣論卷之三 所以委任 不能 乙未 酒三 其四 乙未

此形も遠く親あり
 此形も遠く親あり
 又

楊春
姓石字其山 又暎乃字八子 早

人地
沃
二為所五沃六沃又三為之
乃字因方此山脈水也又

何、復や大海の文
あり
 何、此の
あり
 何、此の

さくしん さくしん 指乃字 さくしん

酒 一盞一盞 五月 一盞一盞

[illegible][illegible]

五ノミヤ
神
生
枝
二

いゝろ^三
棹竿^{カサ}
て^三
いゝろ^四
さる^一
あうり^二

以上三
さけふニ
魚目
さく
て四
され

さか^ニさ^ニさ^ニ探^一さ^ニさ^ニさ^ニ

恒坂
 吉三白
 衣
 疾速又
 疾衣如衣之字
 子者衣疾三白玄
 疾以
 丑者因
 衣衣

[illegible]

墨又
つてある
さげし
おろむ
おろむ
新紙
新紙
人倫と
新紙と

人^{ナニ}産^{ウマ}誕^{ナマ}生^{マユ}二^ニ三^ミと
一^{ヒト}九^クと
想^{ソウ}丈^{ジョウ}並^{ヘイ}

系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之
系乃之

[illegible]

二サ
様 念^サ合^ハよ^ヨ云^ク共^ニ五^ノ根^ヲ 四^ニ一^ノ種^ヲ乃^ハ四^ノ坡^ノ乃^ハ字^ヲ
さ^ハ修^スく^ニ事^ヲの^ハ二^ノ百^ノ五^ノ 一^ノ種^ヲ乃^ハ四^ノ坡^ノ乃^ハ字^ヲ
ひ^ハざ^ハの^ハ四^ノ 二^ノ百^ノ五^ノ 一^ノ種^ヲ乃^ハ四^ノ坡^ノ乃^ハ字^ヲ

定四字二柳二中二、
在二非二之二之二

き
蚕
今よりくもして小冊に記すは外紙之

くどくを所
こが不平
朱砂乃種
燒夕附金は灰あり

名所
碓
二橋表とて衣折とて衣敷とて衣所とて
居所とて

三つぬく

三つを並のきぬく 木より 本乃字二なを 木とて、 一方樹

木とてふ如くても
木乃爲木 乃キキ
其の字を 其
凡長

本付キ
ツ
木又三石を公に送る
久松船が辺は長

も少き 才 本 亦 同 前 一 云

漢尼寺ハニジ
此處に
留まりの字にて、まゝある。相

案今二五
 猶
 付てお著正字別見
 君
 急大表と六帝り附

主人の意を
と云ふ人便
なれば

小糸

加茂系月
下は酒は是

菊

二人は品々各々
きくさうをり

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

霧乃

Handwritten text in Chinese characters, likely a medical or historical record, written in a cursive style. The text is arranged in horizontal lines across the page.

Handwritten text in Chinese characters, continuing the record from the previous page. The text is arranged in horizontal lines across the page.

行の事三つあり
ゆくはゆき
ゆき久

行末 二の如く三つ 指 二の如く 的衣 一帷 ゆぐ

遺言 一遺言 ゆくと 室光 二光 湯 一湯 性

ゆり 一ゆり 函 一函 譲 三譲 湯 一湯 性

来 一来 ゆく 一ゆく ゆき 一ゆき ゆく 一ゆく ゆく 一ゆく

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ ゆ 一ゆ

人同利 二足は 同利 二足は 同利 二足は

名女 二名女 名女 二名女 名女 二名女

乳母 二乳母 乳母 二乳母 乳母 二乳母

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

同字 二同字 同字 二同字 同字 二同字

[illegible][illegible]

七月廿七日... 田尻や... 水... 遠...

三冬... 水... 水... 水...

都... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

水... 水... 水... 水...

麻の角

麻毛の筆麻枝下麻葉の麻糸と云ふ
紐之如生れは麻糸にてあるも紐之

秋

下り

下糸

下枝下麻糸より

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

麻の角

麻毛の筆麻枝下麻葉の麻糸と云ふ
紐之如生れは麻糸にてあるも紐之

秋

下り

下糸

下枝下麻糸より

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

下

下糸

下枝下麻糸より

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

馬車

三葉の戸葉は庵州抄地居
柴 升は三葉の葉を採りて
後ある三葉を庵州抄地居

抄地居 志より 尺と尺と三葉を採りて
木は三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

尺と尺と三葉を採りて 尺と尺と三葉を採りて
尺と尺と三葉を採りて

せ ニシテ あとね ニシテ あげき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

あ ニシテ けき ニシテ けき ニシテ けき ニシテ

ふ

絵母くきふ

北極星をそれ

右衛門尉 出士

火

火 夜 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

名所

夜 夜 夜 夜

夜 夜 夜 夜

夜 夜 夜 夜

因

人 人 人 人

人 人 人 人

人 人 人 人

氷室

氷 氷 氷 氷

氷 氷 氷 氷

氷 氷 氷 氷

日

日 日 日 日

日 日 日 日

日 日 日 日

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

火

火 火 火 火

火 火 火 火

火 火 火 火

物と^七走^カも^カ可^カ

五葉
五葉

紅紫橋シ 四の四之お栗又黒き白葉まじりて何れぞ
赤くくぬき付てもふ若お栗より葉落

[illegible]

考圖乃之碑乃之砂乃之楮乃之麻良乃之
江東乃之抄

予亦之咎之

五葉乃折也

秋紅紫をて地味品と云ふ紅紫は梅中紅と云ふ

[illegible]

多字ありとく

廿七八不若我

其秋也

五

三作
但一百步

二百官二百以字面之極大內大多少并此
為禁中

後世とて屋門門の以爲御殿
のみならず若お城不宜三石を

来子

休戚也

一曰五夜震
且後朝多一

夜
おねえさん、こゝろのやうに
定まりやうと、さうして、

之
乃
花
之

五九三

乃ち
森
二名所
かえく

原の字と

五

もろくも

一

此

物乃幸也

申を以て後侯の事
武士

之武著う我
具をこれ内二

物子集

初言中のくま
口くくを二台

多字より

てきめい、
股をけく、
門跡あり、
漏の字も

ろろ二

四

顯 ニハ

集 ニハ

芥 ニハ

蟬 ニハ

帝 ニハ

多 ニハ

常會 ニハ

常會 ニハ

同 ニハ

同 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

二 ニハ

瘰癧の字を
疥癩と面皰疹の瘰癧をきく

卷十三

深袖ソフデ
摺スリ
摺スリ

六ヶ

堇二造垣

之
則

四
單
變
軟

暖氣甘之
よけを始
さく

二とくうに二百里
あり字きくうと

とろ

火をくわく

冬 子 貴子 姫

今一

救の字四鼻

ふんふんふん

集ニ救キ急一

湯一扣又
又々々
之
道

乃す
荏
生

わろき夕陽の
ふたつと霞と

推量
以押二女去謀不

白土之根 子
押ハ付て 子若

子又足

於彼

斯ス一一か
すてゐ

方
一
陰
陰
陰

此後堅忍
以上
四
五

至吉市

種者
美^ス一^ヒあ^ハと

二句在姓字旁 二句在

不
下
煇

表符面と括

一尺五寸五分

スミ
油

て四
ス力
今
儀主

之令珠玉

三 二

卷之五

わすさてけぬ

風をうかやち
 忍うふ四上

中より 秋高

ひくへ

法字。

以四三

222

一 中乃元上書事 中乃元上書事
 越 備 國 孫 時
 美 繼 肥 金 中
 一 不 不 不 不 不
 一 不 不 不 不 不
 一 不 不 不 不 不



○ 帳名遺大統

一 中乃元上書事 中乃元上書事
 越 備 國 孫 時
 美 繼 肥 金 中
 一 不 不 不 不 不
 一 不 不 不 不 不
 一 不 不 不 不 不

一物乃其字づきも其のそ成

五乃と

其乃と

其乃と

其乃と

一と其字づきも其のそ成

をうぬと

をうぬと

をうぬと

一物乃其字づきも其のそ成

とと

其のそ

其のそ

其のそ

其のそ

一と其字づきも其のそ成

とと

其のそ

其のそ

一と其字づきも其のそ成

一と其字づきも其のそ成

一奥乃其書事

大の字づきも其のそ成

は

大

大

大

大

は

大

大

大

大

一屋の字づきも奥乃其字づき

をうぬと

をうぬと

一市乃字づきも奥乃其字づき

お

お

お

お

一市乃と書事

大の字づきも其のそ成

かろふ^ひふ^ひぬふ^ひれ^ひ びふ^ひに^ひ刑^ひ子^ひ 以^ひ言^ひ
 洗ふ^ひ義^ひ誦^ひふ^ひ迷^ひ ながふ^ひに^ひれ^ひ わふ^ひに^ひ洗^ひ
 ちふ^ひに^ひ拂^ひなふ^ひに^ひ遠^ひ ながふ^ひに^ひ洗^ひちふ^ひに^ひ誓^ひ
 りふ^ひに^ひ遠^ひたふ^ひに^ひ假^ひ ともふ^ひに^ひ伴^ひおふ^ひに^ひ荷^ひ
 いふ^ひに^ひ祝^ひとふ^ひに^ひ唱^ひ うふ^ひに^ひ添^ひさふ^ひに^ひ傳^ひ
 わふ^ひに^ひ相^ひうふ^ひに^ひ叶^ひ ちふ^ひに^ひ狂^ひうふ^ひに^ひ致^ひ
 ちふ^ひに^ひ救^ひひふ^ひに^ひ括^ひ ちふ^ひに^ひ諱^ひむふ^ひに^ひ向^ひ
 きふ^ひに^ひ落^ひちふ^ひに^ひ研^ひ ちふ^ひに^ひ味^ひはふ^ひに^ひ他^ひ
 ちふ^ひに^ひ道^ひちふ^ひに^ひ随^ひ ちふ^ひに^ひ ちふ^ひに^ひ

おふ^ひに^ひ華^ひはふ^ひに^ひ結^ひ きふ^ひに^ひ嫌^ひやふ^ひに^ひ貴^ひ
 ちふ^ひに^ひ巾^ひ乃^ひひと^ひ降^ひちふ^ひに^ひあり

けふ^ひに^ひ糸^ひ こふ^ひに^ひ答^ひおふ^ひに^ひま^ひふふ^ひに^ひ然^ひ
 うふ^ひに^ひ袖^ひまふ^ひに^ひ燈^ひ わふ^ひに^ひふ^ひに^ひ調^ひ
 さふ^ひに^ひ業^ひうふ^ひに^ひ植^ひちふ^ひに^ひ敷^ひちふ^ひに^ひ加^ひ
 世^ひわふ^ひに^ひちふ^ひに^ひ文^ひやふ^ひに^ひ五^ひま^ひに^ひ燈^ひの^ひちふ^ひ
 け^ひに^ひ目^ひに^ひちふ^ひに^ひ中^ひれ^ひちふ^ひに^ひ奥^ひれ^ひちふ^ひに^ひあ^ひま^ひに^ひき^ひ
 又^ひちふ^ひに^ひあ^ひの^ひひ^ひちふ^ひに^ひあ^ひる^ひき^ひ島^ひ ちふ^ひに^ひ人^ひか^ひて^ひ傳^ひ兼^ひちふ^ひに^ひハ
 燈^ひの^ひちふ^ひに^ひちふ^ひに^ひ

一奥のふと下に書事

いゝ 色 すゑ 木 虫 賛 いゝ 家

うゑん 鷹 まゑん 犬 鷹 うゑん 犬 鷹 さゝめん 犬 鷹

むねのふと下に書事

一奥のふと下に書事

此の奥のふと
下にかくて

かい乃ねさめ ひゑん らゐん たゐん おゐく さゐく

一中ねを書事

此の奥のふと
下にかくて

うゑん なゐん うゑん うゑん あり あり

いゝ あり あり あり あり

よゑん きゑん いゝ あり あり

一うゑん下に書事

うゑん あり あり あり あり あり あり あり あり

うゑん あり あり あり あり あり あり あり あり

うゑん あり あり あり あり

右のふと下に書事

うゑん あり あり あり あり あり あり あり あり

うゑん あり あり あり あり

一うゑん下に書事

ひめね しまんま じふあ じん風

ひめ しま じん じん

いふふふふふふふ 蘭をうゝ 雅歌をうゝ

丹波をうゝ 芝蔴をうゝふふふふ

一ふんだういふふふふふ 一地なふふふふふふ

右はかかれふふふふ 候名をかりふふふふふふ

はふふふふふふの奥のひやふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ 唯候ふふふふふふ

日ふふふふふふふふふ

後 書林 隆長 觀其 蘭歌

溝口行亭 ふふふ人筆ふふふふふふふふふ

清書ふふふふふふふふふふ 名ふふふふふ

かふふふふふふふふ 授ふふふふふ數量手ふ

於紫乃志ふふふふ 口傳ふふふふふふ

能風けふふふふふ ぬふふふふふ

うふふふふふふふ ぬふふふふふ

うふふふふふふふ ぬふふふふふ

うふふふふふふふ ぬふふふふふ

此乃乃...
此一帖...
...
...

露吹房

和及



元禄十年丁丑孟春穀旦

洛下書林

新井彌共衛版

政振を...
政振を...
...

誡式之祖雲永長頭翁之嫡門良徳之末

良保孫之正統傳一常矩の

和及竹亭五師之傳一

龜林之居氏尊ら統一

由十と勢ちる...
...

又因主尊く...
...

西度及刻一
新井氏の家...
...

...
...

あらそ其かまひか

二 二四不同之事

●二●○●○● 毎句二と四を不同とせ

●二●○●○● 此二字め仄字なれど四字め平字にせむ

● 是ハ東字あても仄字あても兩韻あり

新ハカク

●○●○●○● 此ハ成をも

●二●○●○● 此二字めと四字めと何ド様

●二●○●○● 此ハ嫌なり

三 四句一平之事

上乃句 ●●●○● 此二四不同れども四字仄字にて

下乃句 ○●○●○● 此又四字まみで一文字仄字あり

但一 秀逸乃句又ハ古語古々とうく用ハ保セ

ある句ありと百韻あり十所の免も

四 避下三連事

上乃句 ○●○●○● 此二四子句なりども仄字三字下

下乃句 ●●●○●○● 此ハ平字三字にハぬあり

五 平仄起之事

上乃句○
○^{平起}
○
●
●
是平起なり此對句ハ仄

ツイ
●
●
●
○
○^袖
起ふ^た之^をひ^き上^り乃^は句

上乃句 ○ 反記 ○ ● ○ ● 付爾何句 反記子多也

ツイ ● ○^平 ● ○^平 又此對句へ平起すズ

羗角と乃句と下乃句をぬけは下れ
句と上乃句並ぶ時ハ同一起ぬとも也

⑥漢和一座法式之亭

面ハ向乃内漢留和空處面の内對ニ所
みズ一ハ義乃義^{ウラ}アリハ對^{ウラ}アリハ不若之

漢和の例ハ面のハ有め和あり和漢の例ハ有め
漢あり和ありハ有め和あり和漢の例ハ有め

面八白乃肉朱門乃句可禁朱門乃句與季載之但一

第唱句ハ各別乃多也

百句乃肉漢五十九句和五十九句之句かざ漢中
も和ふても二三句は多かいはるる一かづ

花雲^二乃内漢^二二句和方^二二句

月如漢より三句五句は多てもうらふ

零五ハ漢ハ少ハて毛ハ和ハて毛ハ五ハがハうハもハをハ知ハわ

對りてをうけ

合掌對として惡きなり是は兩の字と合ありやうに
付はるるを嫌なりたてて天地有無寒暖長
短大小善惡めけられなり

或人曰合掌對いふやれ物ぞ其作意と云
むをて曰たとて夏茅唱句は

蕉 鱒 朱 茄 汁

是より合掌對して

増 鯖 青 夢 饅



唱句は論語陽貨乃篇より惡紫之棄
采也よふ縁よをがりて作より俗は朱
鱒といひて切に乃赤きなり茄乃ををて
紫をとりてをうけ對乃句は鯖を夢鱒とい
たり夢うて饅あふよやうのまさをな
しあるははるはる魚は魚を字
とる字食類と食類立乃振を合する
うぶと對ふとて又け唱句は合掌對は
なりざる對ありん

巖屋一光草 龍

此魚より出朱と光けい食物龍は然也
加種より食之けい物まゝなりをいふなり
同よりて作所之五字は同二字なりけい
こととも一なりけいまゝなりをいふなり
ども一なりけいけい合掌對より難なりけい

八 假名書之事

中華の張九誠日本乃いろはを書史會要に載
りけい住ちより用ひまねりけいけいまゝなり
た人けい月をつきまをやは色をいろまかくけいなり
まゝなりけいけいけいけいけいけいけいけいけい
まゝなりけいけいけいけいけいけいけいけい

は 堂 白 壁 櫓

ミ ゐ と 茂 助

テ ニ て 宗 因

は 堂 乃 白 壁 櫓 是 未 だ 巡 礼 者 の 爲 也
なるなりけいけいけいけいけいけいけいけい
俳諧の一體あり

九連綿字之事

連綿字ハ冠ウ篇ウ作ウ下ニ同ドきとテリ譬々

乾坤

宇宙

屠廐

城塲

囹圄

駭龍

氣形

麒麟

鳳凰

蛤蜊

鴛鴦

猿猴

支躰

肺脾

贅娶

髑髏

肝膽

眼膜

態勢

齒齠

婀娜

蹀躞

慇懃

徘徊

生植

桔槔

芙蓉

枇杷

菖蒲

蒲葦

食服

帋幘

兩襠

袈裟

醴酪

飴餠

爲財

琴瑟

抵牾

幣帛

丙舍

蓮條

右連綿

字ハ連綿

字リ

テ

テ

類

多

大

緊

を

上

ふ

十二物之事

是ハ別々ニ物とニツケテ連續するものなり譬ハ

乾坤中へハ

星霜

雨露

山林

陰陽

春秋

氣形中へハ

龜鶴

大鷄

龍虎

狐狸

燕鶯

交鋒中へハ

客顔

頭項

眉目

心肝

手足

態勢中へハ

生植中へハ

生植中へハ

邪正

無類

得失

松菊

蘭蕙

榛栗

桃李

梅竹

食服中へハ

酒茶

瀉瀉

酒肉

錦繡

肴材

衣被中へハ

金銀

甲冑

弓矢

力杖

筆硯

この外何程ものへ一爰ハ大畧と載り

十三物之事

貪瞋癡

儒教道

過現來

身中意

天地人

智仁勇

それはあまのこ

●(土)底返りのり

底よりといふより下を教めて上へ返るべしと

ふへは易くそと人

稽古

ガク

満池

納就

無心

省經

さうれ類えかゝつていふ句は同一く底返りれ

字よりて對より對句訓うて付るすへ照し

又唱句返りてより多くに底返すて對を付る

可い字れ類えさうさうしつめき三と對する

十三 朱川之事

朱川とゆふ乃名所の名書物乃名年号五位

これと人乃ありて人れ名國の名おひまのふれ

くま對より一平反えあやふあや字對は構

つるさすむ字對くハ形不可なり人れ名書ハ

山谷とゆふに東坡とれ二字をよ乾坤門の字あり

思生とわつる赤久とれハ思と赤ハ光彩門の字主

と人ハ氣形門乃字ありては時ハ上れ對なり

子落り顔の顔と関し乾坤門の字にて別を
まとも子に形門顔の支筋門をい二字射を次ぎ
を朱門なる故射を多之時は頼朝等の顔も
是うて知るべし但唐人の字と日本文の字と射を
へし或は各々道風は字を乾坤門の字に依
射をねるも各々唐人道風の日本人がせしむる乃
頼朝の射を射りしとすす所年号等も同是
所乃あうへ上野は近江松崎の藤原これ字
射して上野と射する高雄三三三八歳なり
字の射をされども朱門松崎よりかへ

朱門狂哥

右所中久ぬたを室乃朱門とかくてあふ
二ツ中乃朱門の物の年九二ツ年号をい

④文字用い極の事

壁へへ香乃字かうとよむる生植を
香具はる用を内へ装成なり也芳は字か
うとよむる生植をいしと青り
月をえ花乃ありて生植より成へし極なり

とよむるん虚押やとかなる也音は用ふ可く生
植はなる茂多 蕪乃字は類も同ふ固音は
用ふ可くうわひのなりて乾坤もなり用 寂
幽乃字もちなり 詩乃字詩を作ふなりと類
字なり 詩文詩書乃なり用ひては筆紙なり
文書章乃字も同意は桐也字きりとよみては
生植なりあゝよみては蕪也なり 梧の字も
同ふ琴なりなりは類乃字なり也

乾坤と形と通用の字

日月星虹霓雷

乾坤と蕪也通用の字

軒扉門戸梯瓦蕪梧碑牀石
灰炭楯棚

乾坤と支貯と通用の字

趾牙氣夢角

乾坤と光彩通用の字

日月星電露煙煤

乾坤と態藝と通用の字

夢中封居處虛空波泥堆載
代遠近上下內外前後表裏

乾坤之生植と通用

林苑森節

氣形と態藝と通用

雄魚樵牧

氣形と支幹と通用

羽翼鱗翰角毛

氣形と光彩と通用

日月星鳥

鳥是心免是心鸞鳳日上螢

氣形と累財と通用

貝蠙鵒

氣形と人倫と通用

雄漁鰥獨孤

人倫と態藝と通用

賢愚樵漁盜賊佗將衆老若

自佗雄勇侶

支幹と態藝と通用

聾新情 智瘡病盲瘡

生植と系財と通用

架茶茗香飄藥榮蘄

生植と光彩と通用

紅翠綠

財と態藝と通用

權綠朽飾詩文章歌同

玉材と光彩とかわん字

丹朱金銀墨玉碧粉錦黛盡

白薄泥

光彩と態藝兼ふ字

清淡濃濁渌然薄泥

数量と態藝と通用

重皆分長短多少細同諸教

幾雙

云々乃文字物負一是對句とけりある時可用

(五) 假名書乃文字物

月と都啼又和計 雲と栴闍 風と加爾 雨と下木

梅花曆

山中に隠れしところの四時もある

春は花の来

春一麦

春の早く来る秋

飲春

春の早く来る秋

鶯餞

日上の

○夏

清和 四月八日を定むるも

迎梅雨

四月の

新緑

夏の始まり

緑迎夏

夏の始まり

梅天

四月を

花富貴

夏の盛り

十三紅

夏の盛り

緑勝花

夏の盛り

山如満

夏の盛り

荷書出

夏の盛り

荷葉蓋

夏の盛り

常緑繡

夏の盛り

梅娘国

夏の盛り

梅娘国

夏の盛り

常緑繡

夏の盛り

荷雨

夏の盛り

老練

夏の盛り

南薰

夏の盛り

暑突熱

夏の盛り

馳暑

夏の盛り

早霖

夏の盛り

炎塵

夏の盛り

涼書

夏の盛り

暑如醉

夏の盛り

火火埃張

夏の盛り

暑埃塵

夏の盛り

炎塵

夏の盛り

風解愠

夏の盛り

秋近期

夏の盛り

炎塵

夏の盛り

○秋

初涼

秋の始まり

金気

秋の盛り

梧桐葉

秋の盛り

推殘暑

夏の残り

黃雀風

夏の残り

梧雨

秋の盛り

金雨キンウ 秋の雨あきのあめ 無語ムゴ 秋風のうしろとあきのかぜのうしろと 桐涼キリヤ 枯相こさう 秋のうしろとあきのうしろと

素景ソウキョウ 秋の景あきのけい 疎柳ソロウ 秋風のうしろとあきのかぜのうしろと 楓錦フキキ 秋のうしろとあきのうしろと

紅樹コウジュ 同上ドウジョウ 荳蔕トウキ 本乃ほんの 寒砧サムシ 秋のうしろとあきのうしろと 客瘦キヤクソウ 草木さくも 秋のうしろとあきのうしろと

雁雲ガンウン 秋のうしろとあきのうしろと 寒砧サムシ 秋のうしろとあきのうしろと 令レイ 秋のうしろとあきのうしろと

○冬

枯葉コエフ 凍蝶トウテフ 凍鶴トウカク 凍葉トウエフ 冬乃ふゆの 弓月ユウゲツ 八月乃はつげの

呵筆カフデ 筆フデ 凍雲トウウン 冬乃ふゆの 弓月ユウゲツ 八月乃はつげの

負暄フセン 冬乃ふゆの 敵凍テキトウ 冬乃ふゆの

短景タンキョウ 冬乃ふゆの 數炭スウタン 冬乃ふゆの 釣雪ツウセツ 敵雪テキセツ

手テ 冬乃ふゆの 探タン 冬乃ふゆの 驚キョウ 冬乃ふゆの

左サ 冬乃ふゆの 臘ラツ 冬乃ふゆの 春信シュンシン 冬乃ふゆの 歲暮サイモ 冬乃ふゆの

守歲シュサイ 冬乃ふゆの 大睡目ダイスイメ 冬乃ふゆの

○雜

雲龍友ウンリウユ 冬乃ふゆの 金石友キンシユ 冬乃ふゆの

詩肺シフイ 冬乃ふゆの 肺フイ 冬乃ふゆの 睡仙スイセン 冬乃ふゆの

雲似蓋ウンニガイ 冬乃ふゆの 竹樓チクロウ 冬乃ふゆの

同進道大成

飛良

二冊

同進道重

和及

一冊

同寄垣大成

鷺水

二冊

同寄垣

同作

一冊

同花火大全

立圃

一冊

同花火

二冊

同初學抄

德元

一冊

同初學

一冊

誚林良材

鷺水

三冊

誚諧答

一冊

皇都書肆

田中汲古齋



